

3 . R A M R A I D S

Ramraidingとは、建物に入り込むために盗難車を用いる、直接的なショーウィンドー強盗のことである。それは暴力的だが、デザインを通して、容易にコントロールできると思われる犯罪タイプのひとつでもある。

問題点

Ramraidingについての有効な研究発表は行われてはいないが、その現象自体はよく知られている。それは、数名でチームを組んで一緒に行動する必要があるため、十分に組織されなくてはならない侵入犯罪のひとつの形態である。襲撃の形態は計画的な破壊や暴力である。また、素早く、しかも、あらゆるアラームシステムに対して、目にあまる無関心さで決行されるように計画される。

強盗犯にとっての魅力は、大胆な侵入を決行することへの興奮であるに違いない。すべての行動は、ごく数分間のうちに遂行されなければならない、さらに高速で逃走しなければならない。

Ramraidによって、ビルの構造や調度品へかなりのダメージがもたらされるので、盗まれた商品のコストを上回ることがよくある。それらは、ライフサイクルの見積りをもとにした、特に建物への、対Ramraid防御への正当な根拠となるだろう。

危険が起こる場所

Ramraidersは、特定のタイプの商品を所持する建物を襲撃する。主なターゲットと思われるのは、ポータブルビデオカメラ、コンピューターゲームのような家電製品、アルコール類やたばこ、そして流行の衣類やスポーツ用衣類である。

それらは、転売することが簡単であり、また、量に比例して高価格になる。そのため、強奪され、詰め込まれ、素早く運び去られる商品の数は、十分な価値が得られるような大量なものとなる。

ほとんどの襲撃は、大通りに面した店で行われる。衝撃的でよく報道されていた、ある侵入は、開放されたショッピングセンター内の家電製品販売店で起こった。このケースでは、乗用車は、販売店の入口のramming前に、まず遊歩道に続く入口ドアをうち破っていた。

より危険性の大きい地域は、商店街や工業団地である。これらは侵入者にとって、犯行を見聞きされることなく、建物を襲撃する好機を提供しているのである。

予防策へのアプローチ

小売店主やその他の者が、この襲撃形式の危険性があると考える場所は、経営上でも危険となりうる場所でもある。はじめのアプローチとしては、ramraidersが接近できるエリアにある、価値のある商品の数を減らすことである。そして、一部あるいはすべてのディスプレイ上にある、高級で魅力的な商品を、より安全な貯蔵庫や安全なケージの中に入れることである。

しかしながら、多くの小売店主にとって、安全性と売り上げ促進の間には、葛藤がある。なぜなら、ディスプレイは、大量に魅力的な商品をストックすることが、人々を引きつける販売業務における宣伝手段であるからである。このような状況で、最も効果的な防御策は、ramraidingを難しく、または効果のないものにするデザインを用いることである。

デザインの原則

内部の安全な保管法

危険にさらされるターゲットの数を少なくするために、安全倉庫エリアを供給する。

安全な内部設備の主な機能は、侵入を手こずらせ、損害を減少させることである。店内ケージのような、いくつかの層は、さらに効果を高めることだろう。

鉄筋建造物

1階の構造を車の衝撃に耐えられるよう強化する

鉄筋建造物は、1階の壁や車の屋根くらいの高さの壁、あるいは車で到達可能な土台壁部分を備え付けている。

明らかな住宅基準ではないが、1メートルかそのくらいにわたる、頑丈なコンクリートの建造物は、軽いクラッド法よりも明らかに良い。ドアや窓は弱点となる。それらはシャッターによって守られるべきだが、侵入者はしばしば一般的なシャッターは破ることがある。

店の玄関については、Stall riser（ショーウィンドー用の頑丈な土台、約600mmの高さ）が、すべてガラス張りのものより良いだろう。

車のアクセス制限

弱点となる正面エリアのデザインは、車でのアクセスや侵入手段を妨害することを目的とする。

建物への車での接近を妨害することは、建築構造を充実させるよりも効果的である。しかしながら、防御されるべきエリアは、ポールや鉄パイプのようなものによって拡張できなくてはならない。なぜなら、一部のramraidersは車に乗っているからである。

デザイナーには多くの選択肢が提供されている。最も基本的なものは、進入禁止柱（取り外せるもの）を、建物の正面や徒歩圏への車の侵入妨害したい所へ導入することである。他の方法としては、植物やその他の道路の備品を配置したりなど、景観を間接的に利用したり、そのレベルを変えるものがある。

荷積場のような攻撃されやすいポイントへの侵入は、荷積場所に施錠可能なゲート付きのフェンスを設置することによって、防御できる。これは小売店の駐車場についても特に意味がある。

一般的に、侵入車両で逃走するためのルートが、より間接的で、複雑になればなるほど、raiderにとってのターゲットの魅力は減少する。彼らの目的は、迅速な襲撃と明確な逃走ルートの保証なのである。

参考文献

Good practice

Association of British Insurers(1991b)

Impact attacks on Industrial and Commercial Premises using Vehicles

Shop Front Security Campaign(1994)

Shop Front Security Report

4 . 現金強盗

現金を扱う、業務上の取引が行われる所にはどこにでも、襲撃されたり、強盗襲撃時に暴力で脅迫される危険性がある。

問題点

現金は、商業的背景において、最も一般的な強盗の対象である。大半の強盗は輸送中の現金を狙うが、ここでは、レジスターから従業員に現金を取り出すことを強要する強盗の襲撃に関心を抱いた。暴力の全ての種類は、脅すために用いられるが、たいがい多くは、本物あるいはイミテーションの拳銃などの武器によって行われる。

取引現場における安全なレジスターのいくつかの形式で現金を保管することが一般的なやり方である。これは、取るに足りない泥棒やひったくりから守るためには優れている。このレジスターの機能は当然有効ではあるのだが、それでもなお、従業員はレジスターが外部に持ち去られないよう、泥棒を警戒しなくてはならないので頭を抱えている。しかしながら、彼らは、強盗の危険から守られてはいない。従業員が強盗に脅された場合、多くの業務マニュアルでは、無抵抗に服従することをアドバイスしている。レジを任されている従業員への危害は、重大となる可能性がある。あらゆる襲撃は、巻き込まれた人々にとって非常な脅威となるのである。

危険が起こる場所

危険は現金を扱う所どこでも生じる。特に、従業員と一般市民との間で現金取引が行われる所で最も多く生じる。

危険性レベルに関する理論では、多額の現金がある所で最も危険性が高いとされるが、最近の被害からは、これらのシチュエーションでは、たいがい十分に防御されているので、もっと少額で防御が弱い場所での危険性が高くなることが示されている。

強盗の危険性は、為替サービス、消費者融資サービスを提供する場よりも、現金のセキュリティーが重要視されていない所に生じる。イギリスやアメリカでの研究では、その危険性は、規模が小さかったり、深夜営業をしていたりするために、店舗にたった1人か2人の従業員しかいない、商店やコンビニエンスストアで最も高くなることがいわれている。さらに、危険なのは、レジスターの操作が、閑散とした時間帯にごく少数の従業員によって行われているところである。例えば、鉄道の切符売場や駐車料金所のようなところである。

予防策へのアプローチ

強盗の危険性を減少させるために、単独で、あるいは組み合わせて使えると思われるいくつかの方略がある。従業員保護のための3つの基本方針は、ターゲットの難易度を上げる、ターゲットを削減する、ターゲットを排除することである。

強盗にとって、ターゲットの固い防御体制というのは、普通、耐久ガラスの衝立やrising screenによる従業員の保護を意味する。一部の予防策は、小売店やレジヤ施設のような、特に危険度の低いシチュエーションにあるところでは、他の従業員によってもたらされる。

ターゲットの削減とは、取引所で扱われる金額を減少させることである。現金をどこか他の場所に保管する、あるいは、できるだけ速く、銀行や証券会社に振り込むことによって、それは可能となる。

ターゲットの排除とは、従業員の必要性をなくすための、現金を用いない取引の利用、あるいは現金取引の自動化（機械化）のことである。これらのオプションは、ともに、現在よく発達している。

また、強盗を思いとどまらせる、ごく一般的ないくつかのアプローチもある。その内容は批判に値する。例えば、従業員が十分に配属された小売店の奥に位置するレジスターは、ドア付近にあるものより強盗に襲撃されにくい。だがしかし、深夜営業のたった1人の従業員しかいない小規模のコンビニエンスストアでは、繁華街がよく見渡せる店の入り口に、レジスターが置かれることが、安全だと思われる。

多くの研究が、コンビニエンスストアにおける深夜強盗を減少するためのデザインを用いて、アメリカで行われている（summarised in Hunter & Jeffrey, 1992）。重要だと思われるデザインの特徴は、例えば、入口で光や位置によってできた死角に隠れる機会をなくすこと、道からより見えやすい内装にすること、隣接する駐車場を明るくすること、夜間活動する他の施設の付近に店を配置することが含まれている。

さらに、デザインやレイアウトが強盗の危険性に影響を与えるという証拠が、アメリカの銀行と住宅金融組合についての研究(Wise & Wise, 1985)によって示されている。研究者達は、レジのスペースが広くなればなるほど、カウンターのレイアウトが拡大すればするほど、暴力的な襲撃に遭遇する危険性が低くなることを発見した。強盗は、客のエリアがコンパクトであり、強盗犯が視覚的に全てのエリアをコントロールできる時に、より高い頻度で発生する。その研究では、また、たぶん、同様な理由により、1つの公共の入口しかない店舗で、

強盗の危険性が高くなることを発見した。

デザインの原則

余剰金の保管場所

取引現場から離れた所に、安全な現金保管場所を設置する

レジの中にある現金を最小限にするために、余剰金は取引の場所というよりは、どこか別の場所に保管するべきである。通常人々が入り可能な場所からの、視界からはずれた安全な部屋に、金庫を備え付けるべきである。より人目に付かなくて、公共の場から立ち入ることができないことが好ましい。

安全な遮蔽物

従業員を安全な遮蔽物によって守る

多額の現金があり、しかも、1人か2人だけの従業員しかいないところでは、従業員を守るために強い物理的な障害が必要であることを示す、十分な証拠がある。比較的小規模な郵便局(Ekblom、1987)やチケット売場、駐車場の料金所などがその例に含まれる。

公衆と従業員のエリアとは、連続的なカウンターで区切られ、安全な遮蔽物のはめ込まれている。壁は、拳銃や薬品スプレーから守るために必要である。カウンターを隔てた公共側から、従業員側に向けられた、射撃が直接届くことはないよう保つことによって、守るのである。また、壁は大ハンマーによる襲撃も抵抗し、頭上からの接近も防御する。主な設計明細書でラミネートガラスを利用することは、重要だと考えられる。このアレンジは、現金取引が商品ではなく、文書で行われる、銀行内や住宅金融組合、郵便局、あるいはチケット売場のような場所で、一般的に用いられている。つまり、小売店では用いられていないのだ。

現金が扱われる場所は、キオスクやチケット売場のように、構造的に分離された部分にあり、その保護は、その構造すべてに及ばなくてはならない。例えば、ドアは、少なくとも、ガラス張りの壁程度の強度である必要がある。理想としては、現金が扱われる場所は、分離されているのではなく、安全性を高める1つの大きな構造として、統合されていなくてはならない。

RISING SECURITY SCREEN

従業員を緊急時にだけ起動するrising screenによって守る

rising screenは、提供する安全性が、明らかにfixed screenよりも低いが、

数人の従業員（6～8人以上）が一緒に働いている場所や、例えば、住宅金融組合のように、十分に公共的な印象が特に重要な場所では、それらが取り付けられている。Rising screenは通常、低いfixed screenとの組み合わせ、典型的にはパースペックスの中に組み込まれている。

Rising screenが設置されることで安全性のレベルが低くなる場所では、入口とカウンターの間に適度な距離を保つとともに、ゆったりとして広い公共エリアを作り出すことが重要となる。これは、従業員にトラブルに気付くと同時に、壁を起動させるための、十分な機会を与えることになる。また、あらゆる事件を記録し、捜査を支援するためにCCTV監視カメラを公共エリアに設置することが一般的となっている。このような状況下では、CCTVは妨害物として機能すると考えられる。

一部の組織では、この外部エリアへの接近を制限している。となると、客は、ガラス張りの入口のドアの外で、従業員がリモコン操作によってドアを開けるまで、待たなくてはならない。

レジスターの見える範囲

レジスターは、店舗の中からも外からも見えやすい、高い場所で保管される

適当な額の現金で、1～2人だけの従業員メンバーしかいない場合、従業員が孤立しているため、強盗の危険性が主になる。襲撃は、夕方、業務が落ち着いた時に、コンビニエンスストアや、酒類小売店、ガソリンスタンドのような場所では、最も頻繁に起こる。

主にアメリカで行われた研究は、従業員を守り、また、強盗事件を減少させることができる手段の方向性を提案している。彼らは、レジスターが透明な窓を保つことで道から見えやすくすること、十分明るくすること、上段に置くことが含まれている。レジの位置を高くすることは、襲撃を比較的難しくし、従業員に十分な店内の視野を与えることになる。外部エリアを明るくすることは、見られて、妨害されるチャンスが高まることによって、予備的強盗犯の決意をくじかせることになるだろう。

夜間に、コンビニエンスストア業務を行う計画をあきらめている、多くのガソリンスタンドに注目すると、燃料の支払いは、壁で防御されたレジで行われている。

レジの分類

複数のcash pointは一箇所にまとめる

適当な額の現金が扱われ、店舗に多くの従業員がいる所では、強盗の危険性はより低くなる。適切なやり方が、安全性の促進が期待できるような形に、発展してきている。特に、大きな open plan shop やスーパーマーケットにおいて、いくつかの現金を分類し、まとめるというやり方は、窃盗計画を立てた者にとって、それらのターゲットとしての魅力を減少させているのである。

参考文献

Austin,C(1988)

The Privention of Robbery at Building Society Branches

Ekblom,B(1987)

Preventing Robberies at Sub-Post Offices : an evaluation of a security initiative

Hunter,R D&Jeffrey,C R(1992)

'Preventing convenience store robbery through environmental design'

Wise,J A&Wise,B K(1985)

'The interior design of banks and the psychological deterrence of bank robberies'

Good Practice

British Standard 5051 : Part 1 : 1973

Bullet-resistant Glazing

5. 従業員への暴力行為

従業員を強盗以外の暴力行為から保護することが課題である。それは、特に言語的暴力の問題であるのだが、物理的暴力行為も起こっている。

問題点

金銭取引に関連した、暴力行為や暴力的脅迫は、業務上、一般的な危険であることは明らかになった（§ 4 参照）。また、現在、他の理由による暴力行為もまた、深刻な問題であることが明らかになった。実際には、その暴力行為は、物理的なものより言語的なものがほとんどである。しかし、様々な仕事形式にある従業員が、脅迫や言語的暴力を、深刻な問題と見なしていることは明らかである。様々な仕事の例としては、交通や健康、教育、社会的サービス、また、小売店、特にパブやクラブといった娯楽施設で、一般の人々と接触するすべての仕事が含まれる。小売店犯罪の最近の調査によれば、従業員は、およそ100人に8人の割合で、毎年一般の人々からの脅迫や暴力行為を経験しているという(Burrows & Speed, 1994)。

危険が起こる場所

本質的に、従業員が交通制度の中でチケットを拝見したり、あるいは、賭博場や娯楽施設への出入りを制限したりするような、人間の行動を制限したり監視したりするとき、従業員は、暴言や暴力行為に直面する可能性がかなり高い。暴力行為をよく生じさせる状況は、社会福祉や住居割り当てを扱う官公庁や社会事業、保健施設で見られる。他によく知られた環境というのは、パブや、比較的危険性は低くなるが、あらゆる入場口や受付ポイントが含まれている（もっと多くの例はPoyner & Warne, 1988の論文を参照）。

予防策へのアプローチ

この危険の抑制と管理には、仕事場のデザイン、公的な対応の仕方、従業員の認識や、対人関係能力のトレーニングなど、実に色々な方法がある。デザインは、ただ様々な予防策の1つを提供するに他ならないが、予測可能な状況で、暴力や暴言のやりとりが繰り返られる潜在的危険性のある所では、うまくデザインされた環境は、多くのことを提供できるのである。

この手引書で、デザインで可能な範囲内の環境設定すべてを提供することは現実的にはできない。学んでほしいことは、案内所や受付カウンター、応接室における、いくつかのデザインの原則である。

デザインの原則

はじめに、案内や受付、登録、serving drinkなどのような業務処理が行われる、カウンターのデザインのための2つの原則を提供する。これらは入口、受

付場所、インフォメーションカウンター、あるいはバーであるかもしれない。

カウンターの高さと幅

カウンターの高さとは幅は従業員と客を十分に分けるように設定する

カウンターを越えたり、従業員を脅迫したりする、非常識な客の危険を減少させることは重要である。低くて狭いカウンターデザインは排除すべきである。実際のカウンター寸法は、業務上の必要性から制限されるが、客側からの高さが1メートル以下のカウンターは低すぎる。高さは、1200ミリ位が理想である。カウンターの幅は、少なくとも800ミリはなくてはならない。

2つ高さのカウンターデザインは、例えば、ホテルの受付カウンターで、よく用いられている。

これは、カウンターの従業員側に十分な安全性をもたらす。高くて広いカウンターは、顔と顔の距離を、非常識な態度の頻度を下げ、従業員にとって業務処理をしやすくするのに好ましい1500ミリ程度に拡げる。

Raised floor

従業員が座る場所にraised floor levelを用いる

従業員がカウンターに座ったままで、客が立っているという場合、カウンターの両側で同じ高さで視線を合わせられるために、従業員側の床の高さを上げることに、いくつかの利点がある。

次に挙げる原則は応接室用である。

広いテーブルと低い椅子

従業員と面談者とを分離するために広いテーブルと低い椅子を導入する

面接がテーブル付近で行われるのであれば、顔と顔の距離を約1500ミリにし向けることは、たとえ面接者がテーブルの片側にもたれかかっているにしても重要である。低い椅子もまた、より顔と顔の距離をより広くする。

次の原則は、カウンターと応接室に共通のデザイン用である。

非難経路

従業員用の避難経路を設定する

カウンターの後ろの従業員用の場所の計画では、従業員が、ドアや、補助従業員

員が普段待機している場所に続く開放部に、直接接近できなくてはならない。同様な避難経路は、応接環境でも導入される必要がある。

補助監視員

他の従業員のメンバーからの補助監視員を導入する

できる限り、カウンターは、他の従業員が普段働いている、隣接するオフィスなどから見通せなくてはならない。このことは、応接室に続くガラス張りの壁の使用によって達成できるだろう。分離されたカウンターの従業員は、当然、危険性が高くなる。

カウンターや面接場面では、警報ボタンはたいがい設置されているが、それらが利用されるのは、ごくまれである。

参考文献

Burrows, J & Speed, M (1994)

Retail Crime Costs 1992/93

Health & Safety Commission (1987)

Violence to Staff in the Services

Mayhew, P, Elliot, D & Dowds, L (1989)

The 1988 British Crime Survey

See chapter 4 'Crime at work'

Poyner, B & Warne, C (1988)

Preventing Violence to Staff